

教育研究業績書

2016年10月01日

所属：英語キャリア・コミュニケーション学科

資格：准教授

氏名：清水 利宏

| | |
|--|---------------------------------------|
| 研究分野 | 研究内容のキーワード |
| 英語スピーチ・プレゼンテーション（主にビジネス分野）、ESP（主に理容美容英語教育分野） | ビジネス英語スピーチ、プレゼンテーション、レトリック、実務英語 |
| 学位 | 最終学歴 |
| 博士(英語学) 関西外国語大学、 修士(文化情報) 日本大学 | 関西外国語大学大学院 外国語学研究科 英語学専攻 博士課程後期 修了 |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|-------------------------------------|-----------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 教育方法の実践例 | | |
| 1. すべて英語による実践型のビジネス・プレゼンテーション教育 | 2011年4月～2015年3月 | (関西大学・同志社大学・滋賀県立大学のビジネス英語関連講座) 全講義をすべて英語で進行する実践型のスピーチ、プレゼンテーション(ビジネスコミュニケーション)講義を実施した。基本的なビジネスコミュニケーション論の講義と、プレゼンテーションの実践演習のバランスに留意し、学生の英語学習ニーズに対する意識強化を目指した。 |
| 2. 英語スピーチ活動における教育貢献(課外教育) | 2005年4月～ 現在 | 英語スピーチコンテストの運営委員や招聘審査委員として継続的に活動するほか、出場学生に対する課外指導や、指導教員向け・実務家のセミナー活動を積極的に続けている。自身の研究成果を反映したスピーチ教育を通じて、指導学生が学外大会等で受賞をするなど、教育と研究が一体となり、学外に誇る成果を残している。 |
| 3. マルチメディアと「インターカード」の活用 | 1998年4月～ 現在 | 全授業において、テキストと連携するマルチメディア教材を自主制作している。どの科目においても、プレゼンテーションやシャドウイングなど、実際に英語を声に出す機会を多く設けるよう工夫するほか、ペアワークやグループワークを基本とした授業運営で、基礎的な英語運用力を伸ばす試みを実践している。また、独自の「インターカード」(メッセージ交換型のネームプレート)を活用し、学生相互と教員がともに励まし合う環境を整えている。 |
| 2 作成した教科書、教材 | | |
| 1. メディアミックスによる教育教材の制作 | 1998年4月～ 現在 | 各種の印刷教材やデジタル教材を自主制作するとともに、オンラインビデオ教材の制作協力を通じて、学生の学習意欲の向上を目指してきた。 |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 1. 理容美容業界向けESP教育の実践 | 1998年4月～ 現在 | 理容美容業界の実務経験(サロンオーナー・ヘアスタイリスト)を持ち、1998年に施行された理容師美容師養成施設における2年制教育の導入から13年間、美容英語教育に携わってきた。その後も、美容英語教育分野におけるESP研究および教材開発を継続し、2016年4月には、日本理容美容教育センター発行の外国語教材を単著で執筆。また、同教育センターの外国語インストラクターとして、日本における美容英語教育/ESP研究の主導的役割を担っている。 |
| 4 その他 | | |
| 1. G7 ジュニアサミットin三重2016 日本代表参加者 英語指導 | 2016年1月～2016年4月 | 2016年5月のG7(主要国首脳会議)関連行事として開催された「ジュニアサミットin三重」の日本代表参加者に対する英語スピーチ・ディスカッションの指導を担当した。この指導については、新聞・テレビ等でも何度か報道された。 |

| 職務上の実績に関する事項 | | |
|--|-----------------|-----------|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 資格、免許 | | |
| 1. TOEIC スピーキング&ライティングテスト 400点 (両部門満点) | 2007年3月 | |
| 2. 実用英語技能検定(STEP) 1級 | 2004年7月 | |
| 2 特許等 | | |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 1. 一般社団法人日本毛髪科学協会 毛髪診断士 | 2003年8月～2015年1月 | |
| 2. 管理理容師資格 取得 | 2001年11月 | |
| 3. 理容師免許 取得 | 1998年2月 | |
| 4 その他 | | |
| 1. 感謝状表彰 | 2009年6月 | 学校法人長谷川学園 |

| 職務上の実績に関する事項 | | |
|------------------------|-------------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 4 その他 | | |
| 2. 青春俳句大賞 英語俳句部門 最優秀賞 | 2004年3月 | 龍谷大学主催、文部科学省後援 |
| 3. コミュニティFM 生放送レギュラーDJ | 1998年10月～1998年12月 | 地方FM局の開局とともに、ワンマンスタイルのバイリンガルDJとして、毎週90分の生放送番組の企画・制作・出演を担当した。120分間の生放送特別番組も担当。 |
| 4. ネーミング、ラジオCMコピー賞等の受賞 | 1992年2月～2004年3月 | コピーライターとしての実務経験があり、官公庁、大手企業、放送局主催のネーミングコンペやラジオCMコピーコンテストにおける受賞（公式採用）実績を持つ。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|-------------|---------|-----------|-------------------|----|
| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |

| | | | | |
|---|---|---------|--------------------------------|--|
| 1 著書 | | | | |
| 1. 『外国語』（英語） | 単 | 2016年4月 | 公益社団法人日本理容美容教育センター 刊 | 我が国唯一の教育センター指定外国語教材。（総ページ数）120ページ。 日本全国的美容学校学生を対象とした、国際実務英語の理論および実践を学ぶ国内唯一の統一教材を単独で執筆。単なるダイアログによる会話例の提示だけではなく、ESPの基本理論に基づいた「動機づけ」の視点や、発展学習への道筋を示すことに重点をおいて執筆・編集した。 |
| 2. 『すぐに役立つ ビジネス英語スピーチ100 上達の秘訣30+モデル文100』 | 共 | 2014年3月 | 株式会社研究社 刊 | 亀田尚己氏（同志社大学教授 ※執筆当時）との共著。（総ページ数）256ページ。 英語ビジネススピーチに関連する研究成果を、実践的な観点から整理した書籍。概念メタファ理論における「概念」の考え方を、実学レベルで採用するという新たな試みを提案している。複雑な理論を分かりやすく解説することを目指して、実際のビジネスをモデルにした100種類のスピーチと、それらと連携する30講の理論解説を編集。基礎から応用までの理論と、発展的な実践までを取り上げて、幅広いビジネススピーチを考察している。 |
| 3. 『高等教育における英語授業の研究』 | 共 | 2007年1月 | 大学英語教育学会（JACET）授業学研究委員会編、松柏社 刊 | pp. 168-169（分担執筆）。 特徴のある英語教育の実践事例として、「理容師美容師専門学校における実践型ESP教育」を執筆。サロン業務資格者によるESP教育の実践事例を解説し、即戦力の育成が求められる実務英語教育現場では、英語教育者と実務者とが協同的に行なうCollaborative Teachingが重要視されるべきであると論じた。 |

| | | | | |
|---|---|---------|---------------------------|--|
| 2 学位論文 | | | | |
| 1. Re-defining the Dominance of Conceptual Metaphors in Business Speeches from a Chronological Perspective: A Methodological Approach Employing the Mental Distance Concept | 単 | 2012年3月 | 関西外国語大学大学院 外国語学研究科 博士学位論文 | （総ページ数）260ページ。 概念メタファ理論に基づき、ビジネススピーチにおける話者の概念構造の特徴を、新たな「時系列的な視点」で分析した。必要な解析プログラムを独自に開発し、質的・量的の両面から、ビジネスコミュニケーションにおけるメタファ構造を、「メタファグラム」を用いて視覚的に実証した。CEOスピーチと米国大統領のスピーチをコーパス化したうえで比較検証することで、ビジネススピーチにおける「時系列的な概念表出の重要性」を統計的に立証し、その分析結果を実際の英語教育に応用するための指針をまとめた。 |
| 2. 「受動的学習環境におけるモチベーション本位の実務英語教育と実践」 | 単 | 2006年1月 | 日本大学大学院 総合社会情報研究科 修士学位論文 | （総ページ数）87ページ。 「情意フィルター」の役割と「道具的動機づけ」を中心的な議題とし、受動的な態度で実務英語学習に臨む学習者に対するESP教育を考察した。本稿では、学習者の「道具的ニーズ」の強化を図りつつ、教室に実務現場を忠実に再現することが学習者のモチベーションを高めることを論証した。 |

| | | | | |
|--|---|----------|--|--|
| 3 学術論文 | | | | |
| 1. “An Extensive Study on Characteristics of Business Speeches: A Corpus Approach to Business Metaphors” 【査読付】 | 単 | 2015年12月 | 日本国際情報学会（JSGS CS）編『国際情報研究』、第12号、pp. 104-115. | ビジネススピーチにおける「時系列的支配性」の意義に着目した先行研究の有効性を再検証を試みた論文。2005～2009年に発表されたビジネススピーチ50本によるコーパスを構築し、メタファグラム分析によって、その特徴を数値化した。その結果、先行研究で提起された「時系列的支配性」の存在、および他の支配性との関連性について、同様に支持する結果が得られた。本研究により、今後のビジネススピーチに対する継続的研究の意義が確認できた。 |
| 2. “The Practical Use of Metaphors in Business Communication: A Chronological View” | 単 | 2014年3月 | 同志社大学商学会編『同志社商学』、第65巻第5号、pp. 77-94. | ビジネスメッセージとメタファの関わりを概観したうえで、株式会社楽天のCEOメッセージにおける概念メタファの時系列的推移をメタファグラムで分析した。その結果、時間軸上に記録された概念構造には特徴的な転換現象が見られ、それが論旨の明快さを支えていた。メタファを指導する際には、こうした「視覚的な例示」を伴う教育が、「実社会での言葉選び」に対する学生の意識を高めることを提起した。 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・ 共著書別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称 | 概要 |
|--|-------------|---------------|--|---|
| 3 学術論文 | | | | |
| 3. “Examining the Dominance of Conceptual Metaphors in Business Speeches: The Third Factor” 【査読付】 | 単 | 2014年12月 | 日本国際情報学会(JSGS CS) 編『国際情報研究』, 第11号, pp. 56-67. | ビジネス英語スピーチにおける「主要な概念メタファ」を定義するための新たな指標として、「時系列的支配性」を提起し、その意義を検証した論文。ビジネススピーチ10本の詳細なデータの再考と検証の結果、「時系列的」という第3の支配性は、従来から実績のある量的支配性と一定の関連性を維持しつつも、分布的支配性からは独立した指標として機能することが明らかとなり、時系列的支配性の重要性が示された。 |
| 4. “Designing business speeches with CEO’s metaphorgrams” 【査読付】 | 単 | 2013年9月 | 国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 編『研究年報』, 第72号, pp. 39-50. | ウェブサイトの「企業理念」の主要コンセプトが、どのように「CEOメッセージ」に反映されているのかを、メタファグラム分析によって検証した。さらに、その検証過程で得られたメタファグラムを用いて、実際にCEOメッセージの改訂を試みた。その改訂により、「企業理念」の2つの主要概念が、「CEOメッセージ」の時間軸上で連携するような作用を示す結果をもたらした。 |
| 5. “Chronological Perspectives in Metaphor Research and Applications to Business Speech Education” 【査読付】 | 単 | 2013年12月 | 関西外国語大学 国際文化研究所(IRI) 編 <i>New Horizons in English Language Teaching: Language, Literature and Education</i> , pp. 235-258. | 英語スピーチやプレゼンテーション教育における、概念メタファの知見を援用した「ことば」の選択と時系列的配置の技法について論じた。身近なビジネスコミュニケーションの事例紹介にとどまらず、最新の企業PR戦略における時系列的なメタファ設計の重要性を考察し、教育への応用展開のステップを具体的に示した。後半では、実際の教育モデルを描きながら、「メタファグラム」の教育活用の方法を論じた。 |
| 6. “Dots or Flows? - A Field of Metaphors in Business” 【査読付】 | 単 | 2012年9月 | 国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 編『研究年報』, 第71号, pp. 41-50. | これまでに蓄積された「時系列ベースの概念レトリック分析」について、基本に立ち返って「点」と「線」の分析技法の、それぞれの優位性を検討する。点的分析は、それぞれのレトリックに対する連携が批判しやすいのに対し、線の分析では、特定のスピーチにおける個人の概念推移を統計的に示せることを論じた。 |
| 7. “Metaphorgram: As a Component of Metaphorprint - Disclosing the Chronological Features of Conceptual Metaphors” 【査読付】 | 単 | 2011年11月 | 日本国際情報学会(JSGS CS) 編『国際情報研究』, 第8号, pp. 14-25. | これまでの「時系列的メタファ分析」の知見を集約し、メンタルディスタンス分析によって生成されるメタファグラムが、人物を特定しうる性質を持つかを各種の統計分析によって考察した。その結果、人物特定に至るまでの性質はないものの、表面的には観察できない「隠れた周期性」の存在が明らかとなった。これにより、メンタルディスタンス分析の「教育面への応用」の可能性が、改めて支持されることとなった。 |
| 8. 「ビジネス英語教育における動機付けと英語スピーチ課題の相関性」 【査読付】 | 単 | 2010年9月 | 国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 編『研究年報』, 第69号, pp. 49-61. | ヘアビジネス業界向けESP教育を主題とし、まずは同業界で働く人の基礎的な学習者特性について再検討した上で、「道具的ニーズ」を強化する取り組みについて論じた。美容業界向けESPにおけるパブリックスピーキングの役割を考えたとき、学習者側の「特定の文法知識の程度」を理解することが、スピーチ課題を検討する上での重要となる点を論証した。 |
| 9. “Born to Be a Weapon: A Critical Analysis of Metaphorical Business Communication” | 単 | 2010年9月 | 大阪経大会 編『大阪経大論集』, 第61巻 第3号, pp. 165-177. | 最新通信機器を取り巻くビジネス環境において、Apple, Softbank Mobile, NTT Docomo各社の広報アプローチにみる概念メタファの役割を分析した。概念メタファによって、商品広報に付加価値が与えられる点について具体例を挙げて論じ、プッシュ元大統領の演説レトリックとの共通点を指摘。概念メタファによる「聴衆操作」の実情を明らかにした。 |
| 10. “Developing the T-Scope (version 2.0) Program for a Statistical Approach to Business Metaphor Analysis” | 共 | 2010年7月 | 大阪経大会 編『大阪経大論集』, 第61巻 第2号, pp. 329-343. | 下倉雅行氏との共同研究。(清水が全ページの執筆を担当) メンタルディスタンス分析の数値演算を処理する自主開発のコンピュータプログラム(T-Scope / Visual Basic for Applications)のバージョン2.0について、その開発意図や動作アルゴリズムを論じた。手作業領域の自動化が、量的分析にもたらす省力性能は大きく、汎用性ファイルによる書き出し機能と合わせて、今後の発展的展望を述べた。 |
| 11. “A Metaphor Identification Procedure for Corpus-Based ‘Mental Distance’ Analysis” | 単 | 2010年5月 | 大阪経大会 編『大阪経大論集』, 第61巻 第1号, pp. 203-215. | メタファ研究において、今もなお議論が残る「メタファ定義」に関して、特に「メンタルディスタンス分析」のためのメタファ定義を考察した。実際のビジネススピーチを題材とし、46点のメタファ表現について、具体的な根拠とメタファ効果について個別に論じた。 |
| 12. “‘Mental Distance’ Concept for Chronological Metaphor Analysis of Business Executive Speeches” | 単 | 2010年3月 | 大阪経大会 編『大阪経大論集』, 第60巻 第6号, pp. 245-268. | ビジネススピーチにおいて、メタファの技巧的活用による聴衆との「心的距離」の操作を「メンタルディスタンス仮説」として提起した。同時に、その推移を視覚的にグラフ化する手法を提示することで、従来は視覚化できなかった「概念メタファの時系列的表出傾向」を、具体的な実験データをもって論証 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|------------|--|--|
| 3 学術論文 | | | | |
| 13. “Dominant Metaphor Factors in Business Speech Communication : A Chronological View” | 単 | 2010年11月 | 大阪経大会 編『大阪経大論集』, 第61巻 第4号, pp. 105-122. | 独自に開発した、実験的なレトリック分析技法である「メンタルディスタンス仮説」をさらに検証した。新たに4本のビジネススピーチを分析し、従来の2つの支配性構造(絶対数と分布率)以外に、「時系列的支配性」が存在することを統計的・視覚的に立証することに成功した。この成果を応用し、概念的なレトリックアプローチを計画的に推進できる可能性が示唆された。 |
| 14. “Perspectives of Metaphors in Business Speeches” | 単 | 2009年5月 | 大阪経大会 編『大阪経大論集』, 第60巻 第1号, pp. 141-150. | 英語スピーチにおける比喩表現が、話者が主題を捉える際の心理的距離に与える影響について考察した論文。比喩に関する先行研究を整理したうえで、ビジネスにおける比喩表現の重要性を論じ、比喩表現と話者の視点の距離を示す“Mental Distance”と、点的分析ではなく、線的な比喩分析を目指す“Spiral Metaphor”というふたつの仮説を示した。 |
| 15. “A Comparative Study of Metaphors in Business Speeches” 【査読付】 | 単 | 2009年12月 | 日本国際情報学会(JSJCS) 編『国際情報研究』, 第6号, pp. 20-28. | カルロス・ゴーン(日産自動車)と、リー・アイアコッカ(クライスラー)が発表した、工場閉鎖のスピーチを題材とし、概念メタファの質的比較考察を行なった。その結果、イントロ部がスピーチ全体のメタファのイメージを決定づける可能性が示唆され、メタファの時系列的分析への期待が深まった。 |
| 16. 「英語スピーチ講座におけるラジオCMコピーの活用と教育実践」 | 単 | 2008年3月 | 鈴鹿国際大学 編 CAMPANA, 第14号, pp. 87-102. | ラジオCMのコピーライティング技術と英語スピーチの構築技術の共通点を比較考察し、教育法として提言した論考。筆者がこれまでに受賞した実際のラジオCMコピーを比較考察の素材とし、英語スピーチとの特徴的な共通点が「論点の視覚化作用」にあると述べた上で、その教育法にも言及した。 |
| 17. 「美容技術者のための実践型実務英語講座：国際接客演習の理念と実際」 【査読付】 | 単 | 2008年12月 | 社団法人日本毛髪科学協会 編『皮膚と美容』, 第40巻 第4号, pp. 2-8. | 美容業界におけるESP教育および国際接客教育がどれほど「サロン本位」であるべきかを、実践事例を基に述べた論考。現在の日本の美容学校における「外国語教育」の諸問題点を指摘するとともに、それらを具体的解決するための「技術教育的発想」に基づく実務英語教育のモデルを論じた。 |
| 18. 「実務英語教育における英語スピーチ訓練導入への実践方略」 | 単 | 2006年3月 | 鈴鹿国際大学 編 CAMPANA, 第12号, pp. 199-212. | 学生が自らの「道具的ニーズ」に対する意識を高めることで彼らの学習動機を強化しようとする実証研究。英語スピーチをESP教育環境に導入する際、学生に対する「課題の説明方法」と、その結果もたらされる「道具的ニーズの表出傾向」に一定の相関関係があることを実証し、教育現場へ戦略的な実践法を論じた。 |
| その他 | | | | |
| 1. 学会ゲストスピーカー | | | | |
| 1. 「ジュニアサミット in 三重」 日本代表参加者 研修会 講師 | 単 | 2016年1月～4月 | 伊勢志摩サミット 三重県民会議・三重県教育委員会 共催 | 日本代表参加者に英語スピーチ・ディスカッションを指導。 |
| 2. 「サロン英語教育の新展開：導入・実践・改善のポイント」 (招待講演) | 単 | 2015年8月 | 東海地区理容美容学校協議会「夏季研修会」(鳥羽シーサイドホテル) | 理容師美容師養成施設の教員向け講演会 |
| 3. 「すぐ美味しい！ サンドイッチ式プレゼン教室：“シンプルさ”に続く英語発表のヒント」 (招待講演) | 単 | 2015年2月 | 武田薬品工業株式会社主催「第4回 S-PCフォーラム(カンファレンス)」(JRホテルクレメント高松) | 座長兼コメンテーター／特別講演 |
| 4. 「英語でシンプルに伝えるプレゼン術」 (招待講演) | 単 | 2015年2月 | 武田薬品工業株式会社主催「第3回 S-PCフォーラム(カンファレンス)」(高松国際ホテル) | 座長兼コメンテーター／特別講演 |
| 5. 英語スピーチ指導セミナー 講師 | 単 | 2015年11月 | 三重県立飯野高等学校 英語コミュニケーション科 | |
| 6. 英語スピーチ指導セミナー 講師 | 単 | 2014年10月 | 三重県立飯野高等学校 英語コミュニケーション科 | |
| 7. 「焦げる！英語スピーチの教え方」～実践型スピーチ教育を見直す3つの課題～ (招待講演) | 単 | 2014年1月 | 三重県高等学校英語教育研究会 冬季研究会・三重県教育委員会研修センター 共催(三重県立津高等学校) | 高等学校英語教員対象 講演会 |
| 8. 三重セルハイ・英語スピーチ指導セミナー 講師 | 単 | 2012年11月 | 三重県立飯野高等学校 英語コミュニケーション科 | |
| 9. 三重セルハイ・英語スピーチ指導 | 単 | 2011年11月 | 三重県立飯野高等学校 | |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・ 共著書別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称 | 概要 |
|--|-------------|---------------|--|---|
| 1. 学会ゲストスピーカー | | | | |
| セミナー 講師 | | | 英語コミュニケーション科 | |
| 10. セルハイ・英語スピーチ指導セミナー 講師 | 単 | 2009年9月 | 三重県立飯野高等学校 英語コミュニケーション科 | |
| 11. セルハイ・英語学習セミナー（英語スピーチ） 講師 | 単 | 2008年10月 | 三重県立飯野高等学校 英語コミュニケーション科 | |
| 12. コミュニケーション講座 ゲストスピーカー | 単 | 2007年7月 | 国士舘大学 理工学部 留学生講座 | |
| 13. コミュニケーション講座 ゲストスピーカー | 単 | 2006年12月 | 国士舘大学 理工学部 留学生講座 | |
| 14. 特別英語クラス ゲストスピーカー | 単 | 2004年5月 | 龍谷大学 国際文化学部 Professional English Class | |
| 15. 国際接客実務講座 講師 | 単 | 2004年11月 | 新理容研究会 (AIMS) | |
| 16. 「英語学習とESS活動」 講師 | 単 | 2003年7月 | 鈴鹿国際大学 英語研究会 (ESS) | |
| 2. 学会発表 | | | | |
| 1. 「国際共通言語としての美容英語 (BELF) 教育」 | 単 | 2015年10月 | ビューティビジネス学会 (JABB) 全国大会 (東京) | 我が国の美容師・理容師養成施設におけるビジネス英語教育の実践およびその研究を省察し、美容英語教育における学習者特性について改めて考察した。そのうえで、20年目の節目に向かう日本の美容英語教育について、今後の「教育実践の指針」と「新たな教育教材(テキスト)」の両側面から、発表者の提言を整理した。 |
| 2. 「ビジネススピーチにおけるメタファグラム分析と予測モデル」 | 単 | 2014年12月 | 日本国際情報学会 (JSGS CS) 全国大会 (東京) | メタファグラムを用いた時系列的メタファ分析により、2005年～2013年のビジネススピーチの傾向をマクロ的に分析。3つの支配性に基づく「5つの典型例」を抽出し、それらの推移傾向を時系列分析モデルで考察した。その結果、ビジネススピーチの特定の「型」に、一定の波形があることが判明した。ここから、大統領の支持率を予測する仮説を提示する。 |
| 3. “Chronological Trends in Business Speeches: Perspectives from Metaphorgrams” | 単 | 2014年10月 | 国際ビジネスコミュニケーション学会 (JBCA) 第74回 全国大会 (神戸) | 自身が開発した時系列分析指標である「メタファグラム」の有効性について、マクロ的な視点から考察した。2006年～2013年のビジネス英語スピーチを独自にコーパス化し、それらの年度別傾向を、アメリカ大統領の政治スピーチの傾向と比較分析をして検討した。 |
| 4. “Analytical Procedure of Metaphorgram: A Practical Demonstration” 【国際学会】 | 単 | 2013年3月 | Association for Business Communication (ABC) 12th International Asia-Pacific Conference (Kyoto, Japan) | ビジネスコミュニケーションにおける概念メタファの時系列構造を明らかにする「メタファグラム」について、その分析プロセスを公開・実演し、有効性について議論した。楽天グループ代表の三木谷氏のメッセージをサンプルに用いて、彼の基幹概念が時間軸上で推移する様子を視覚的に論じた。 |
| 5. “What Makes Speeches Become Business Speeches? : A Perspective from Metaphorgrams” 【国際学会】 | 単 | 2012年10月 | Association for Business Communication (ABC) 77th International Convention (Hawaii, USA) | 従来の「スピーチ研究」の枠組みでは明らかにできなかった「ビジネススピーチ」の定義について、メタファグラム (metaphorgram) から得られるデータを基に論じる。大統領演説と、CEOのスピーチの比較分析から、ビジネススピーチの特徴を「論点集中型のレトリック」である点を論証した。 |
| 6. “Designing Business Speeches with CEO’s Metaphorgrams” | 単 | 2012年10月 | 国際ビジネスコミュニケーション学会 (JBCA) 第72回 全国大会 (福岡) | 独自の分析プログラム (T-Scope) を用いて描写した Metaphorgram によって、ビジネススピーチと政治スピーチの違いを視覚的に指摘。そのうえで、ビジネススピーチ「らしさ」を模倣することから始めるビジネス英語教育について論じる。実際のCEOのビジネススピーチを題材として、重要な論点の配置を時系列的に「見せる」授業の可能性について議論した。 |
| 7. “Exploring the Dominance of Conceptual Metaphors: A Chronological Approach” | 単 | 2011年7月 | 日本国際情報学会 (JSGS CS) 大阪地方研究発表会 (大阪) | メタファの時系列的分析について、一連の取り組みを整理し、その中から、「指紋」「声紋」「筆跡」に続く分析手法としての「比喩紋」の可能性に言及。実際のスピーチ事例を引用し、今後の検証可能性について論じた。 |
| 8. “Chronological Metaphor Analysis and Its Application to Language Teaching” | 単 | 2011年12月 | 関西外国語大学 国際文化研究所 主催「英語教育」フォーラム | 時系列的メタファ分析によって生成される「メタファグラム」を活用し、視覚的な英語プレゼンテーション教育の可能性について論じた。単なるコンテンツやデリバリー指導にとどまらず、概念メタファ理論を積極的に教育に活かすための「量的」・「時間的」な概念メタファ表現の配置に関する教育法の具体例を議論した。 |
| 9. “Dots or Flows? - A Field of Metaphors in Business” | 単 | 2011年10月 | 国際ビジネスコミュニケーション学会 (JBCA) 第71回 全国大会 (東京) | これまでに蓄積された「時系列ペースの概念レトリック分析」について、基本に立ち返って「点」と「線」の分析技法の、それぞれの優位性を検討する。 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・ 共著書別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称 | 概要 |
|--|-------------|---------------|---|---|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 10. “ ‘Mental Distance’ Hypothesis and Metaphors in Business: Academic and Practical Significance” 【国際学会】 | 単 | 2011年10月 | Association for Business Communication (ABC) 76th International Convention (Montreal, Canada) | 点的分析は、それぞれのレトリックに対する連携が批判しやすいのに対し、練的分析は特定にスピーチにおける個人の概念推移が統計的に示させることを論じた。 「比喩紋」を実際のビジネスプレゼンテーションに援用する意義と可能性、その実証性についての議論を展開。メンタルディスタンス仮説との整合性や、その応用についても検証する。学術的研究と、実践的な応用を結びつけるモデルケースを提示した。 |
| 11. 「ビジネスコミュニケーションにおける比喩分析補助ツールの開発」 | 共 | 2010年8月 | 教育システム情報学会(JSiSE) 全国大会(札幌) | 下倉雅行氏との共同発表。開発意義と分析技術に関する前半約2/3の発表を担当。 ビジネスメタファの数量化演算に必要なVBAプログラム“T-Scope”の独自開発について述べた。分析に必要な専用アプリケーションの開発および改善の技術的背景を、具体的に論じた。 |
| 12. 「メンタルディスタンス仮説とスピーチレトリック分析の展望：概念メタファの時系列的考察から」 | 単 | 2010年6月 | 日本コミュニケーション学会(CAJ) 第40回記念 全国年次大会(東京) | レトリック分析の枠組みにおいて、メタファ考察の位置づけを概観し、時系列的比喩分析の手法を質的・量的な分析手法と比較した。スピーカーが維持すると仮定する「メンタルディスタンス」の定義についても検討を加えた。 |
| 13. “A Chronological Perspective of Rhetorical Metaphor Analysis in Speech Communication” | 単 | 2010年5月 | 関西外国語大学大学院 第63回 研究発表会(大阪) | メタファの時系列的推移を分析するための統計的手法について、実験的分析結果をもとに提示した。概念メタファの数値化がもたらす論証上のメリットを中心に、本研究の優位性を論じた。 |
| 14. “Reconsidering the Metaphor Identification Procedure for ‘Mental Distance’ Hypothesis in Business Speeches” 【国際学会】 | 単 | 2010年4月 | Association for Business Communication (ABC) 9th International Asia-Pacific Conference (Tokyo, Japan) | 文化志向性の強い比喩表現と概念メタファの関わりを前提認識に据え、ビジネススピーチにおける比喩表現の時系列的推移の分析手法を論じた。とりわけ、量的側面と質的側面の結びつきをいかに統計処理すべきかを示した。 |
| 15. “Chronological Dominance of Conceptual Metaphors in Business Communication: The third Factor” | 単 | 2010年11月 | 関西外国語大学大学院 第64回 研究発表会(大阪) | 時系列の概念に基づくスピーチレトリックの分析法(Mental Distance分析)により、話者の「概念メタファ構造」の変移特性を定義づけることが可能であることを示唆。本発表では、特にその「支配性」について言及し、その応用展開について議論した。 |
| 16. “Become Visual and Statistical in Business Metaphor Analysis” | 単 | 2010年10月 | 国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 第70回記念 全国大会(兵庫) | 類似カテゴリーの商品の魅力や、異なるCEOが述べた場合、そのスピーチを背後で支配する概念メタファの構造はどうなるのか。また概念メタファを時系列的に観測した場合、どのような発見が予期されるのかについて論じる。 |
| 17. “Visualizing the Rhetoric of Metaphor with ‘Mental Distance’ Analysis” 【国際学会】 | 単 | 2010年10月 | Association for Business Communication (ABC) 75th International Convention (Chicago, USA) | 「メンタルディスタンス仮説」について、「ミクロ」「マクロ」の視点から比喩表現の批判考察をする手法を整理して提示する。メタファの単純数値化の試みに、質的側面を加味するための量的考察の分析法について議論する。 |
| 18. 「ビジネスコミュニケーションの実践力を養う“KICS”プログラム」 【特別企画採択】 | 単 | 2009年9月 | 大学英語教育学会(JACET) 全国大会(札幌) | 経営学部におけるビジネス英語教育の構築モデルとして、自身が勤務校で実現した「KICSモデル」を提案。個別のタスクベースと、学習者の目的ベースの融合的な教育プログラムの具体例を論じた。 |
| 19. 「英語学習意欲と職業意識を結ぶESP教育：パブリックスピーキングの応用と検証」 | 単 | 2009年9月 | 国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 関西支部 研究発表会(大阪) | 美容業界におけるビジネス英語教育の概要に触れ、これまでのESP教育の位置づけについて再考した。加えて、ESP教育において、学習者特性を反映したパブリックスピーキング訓練のあり方について議論した。 |
| 20. 「英語スピーチによる国際化教育の可能性」 | 単 | 2009年7月 | 日本国際情報学会(JSGS) 大阪地方研究発表会(大阪) | ビジネスで使うための英語を学ぶ学生の学習意欲を、英語スピーチ活動の実践という視点で考察した発表。スピーチ活動におけるテーマの「自由度」の設定に関して、いくつかの問題点を指摘した。 |
| 21. “Metaphor and Mental Distance Analysis in Business Executive Speeches” | 単 | 2009年11月 | 日本コミュニケーション学会(CAJ) 関西支部大会(京都) | ビジネスコミュニケーションにおいて、メタファが果たす役割を考察した。その上で、複数のメタファ表現が複雑に絡み合う談話が、どのようなコミュニケーション効果を生み出すかを検討した。 |
| 22. “A Direction for Metaphor Analysis in Business Speeches” 【国際学会】 | 単 | 2009年11月 | Association for Business Communication (ABC) 74th International Convention (Virginia, USA) | ビジネススピーチコミュニケーションにおけるメタファ分析について、時系列的な分析手法の原形概念を初めて国際的に公表した。従来の量的分析・質的分析とは異なる研究結果をもたらす可能性について議論した。 |
| 23. 「ビジネス英語教育における動機付けと英語スピーチ課題の相関性」 | 単 | 2009年10月 | 国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 全国大会(東京) | 理容美容業界向けESP教育を主題とし、「道具的ニーズ」を強化する取り組みについて論じた。パブリックスピーキングの導入を考えたとき、学習者側の「特定の文法知識の程度」を理解することが、スピーチ課題を検討する上での重要となる点を指摘した。 |
| 24. 「理容師美容師養成施設における実務英語教育の10年」 | 単 | 2008年6月 | 大学英語教育学会(JACET) 中部支部大会(愛知) | 日本における理美容師養成施設での英語教育について、その導入背景と10年間のあゆみを概観した。その上で、学生の美容技術に対する関心の高さを、英語学習の意欲に結びつける教育実践が更に重視され |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------|--|---|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 25. “English Speech Practice for ESP Education” | 単 | 2008年11月 | 全国語学教育学会(JALT) 全国大会(東京) | るべきである点について、事例を示しながら述べた。 英語スピーチを用いて学生の「道具的動機づけ」を高める実証研究の成果を発表した。筆者のこれまでの研究に新たな実証研究結果を加えた結果、ショートスピーチを用いて学生の「道具的動機づけ」の強化を狙う場合は、細かな技術解説を付帯させない方が効果的であるという可能性を述べた。 |
| 26. 「“インターカード”による学生相互の対話と授業改善：褒めあう言葉の傾向分析から」 | 単 | 2007年9月 | 大学英語教育学会(JACET) 全国大会(広島) | A4～B4サイズの厚紙で製作するネームカードを活用し、学生相互に「褒めあう」活動が、英語学習のモチベーションにどのような効果をもたらすかを実証的に研究した。結果として、指導者＋学生ではなく、学生＋学生の対話が、受講者の学習意欲を高める点を発表した。 |
| 27. 「PowerPointの視覚効果を活用した英語授業の実践」 | 単 | 2007年9月 | 私立大学情報教育協会(JUCE) 大学教育・情報戦略大会(東京) | 一般的な「スクリーン」に依存しないPowerPointの活用事例とその効果について発表した。主要な論点は、(1)講堂の壁に大きく投影した画像で英語授業の雰囲気づくりを試みる事例、(2)ホワイトボードに映写したスライドと、実際のペンによる加筆部分が連携する事例、の2点。 |
| 28. 「ラジオショッピングの広告コピーを応用した英語スピーチ教育と実践」 | 単 | 2007年6月 | 大学英語教育学会(JACET) 中部支部大会(石川) | 長編ラジオCMコピーの分野で見られるレトリック技法を分析し、英語スピーチとの共通点を考察した。聴衆の「気付き」から「行動」までのプロセスに、それぞれ共通するMetaphorやIllustration技法が援用されている点を指摘した。 |
| 29. “English Courses; for hairstylists, by hairstylists” | 単 | 2007年11月 | 全国語学教育学会(JALT) 全国大会(東京) | ESP教育においては、「語学を教育する人間」と「現場を知る人間」の双方が、それぞれの知識の欠如を率直に補い合う取り組みが重要である点を発表した。「現場の人間が英語教育を担当する」ということも視野に入れ、新たな教育実践を検討する必要があると指摘した。 |
| 30. 「英語スピーチ教育における視覚化レトリックの指導」 | 単 | 2007年11月 | 日本大学大学院 総合社会情報研究科 オープン大学院(大阪) | 英語スピーチ教育における、レトリック技法の教授法を概観し、「見えないものを見えるように表現する技術」の指導方法について考察した。表現する内容を「身近な経験に置き換えて英文に表現する」技術の指導法を再検討した。 |
| 3. 総説 | | | | |
| 1. 「英語プレゼンテーション(Public Speaking)のヒント」 | 単 | 2012年4月 | 立命館大学 産業社会学部 編『外国語学習ハンドブック』, 2012年度版, pp. 32-35. | 英語でプレゼンテーションやスピーチをする上での重要な点を、学習者の目線で記した論考。「シンプル」「論理的」「対話的」の3つのキーワードを軸にして、分かりやすい言葉で論説をした。パブリックであってもパーソナルなコミュニケーションを実現するためのヒントを論じた。 |
| 2. 「基本技術の訓練と論点の視覚化」 | 単 | 2011年3月 | 鈴鹿国際大学 編 <i>English Speech Contest</i> , 第13号, pp. 22-26. | 英語プレゼンテーションにおける、「声」と「内容」の重要性について、「視覚化」という観点から論じた。揺らぎのない論点を訴求するうえで、核となるアイデアを目に見える形で述べることで、スピーチの全体的な視覚化を実現することを述べた。 |
| 3. 「「伝わる」スピーチを構成するキーワード」 | 単 | 2010年3月 | 鈴鹿国際大学 編 <i>English Speech Contest</i> , 第12号, pp. 30-35. | スピーチの作成過程における、話題の「発展」と「収斂」のステップに注目し、スピーチの推敲過程における原稿の単純化(キーワード化)について述べた。限られた時間内に情報を整理することの重要性を論じた。 |
| 4. 「「私」と「私達」の視点ースピーチからの再考」 | 単 | 2009年5月 | 明治図書出版 編『学校マネジメント』, 第48巻 第6号, pp. 10-11. | スピーチにおける言葉の選択が、聴衆との距離感の演出に与える影響を考察した。「私」と「私達」という言葉に焦点を当て、言葉のすり替えによってpersuasive speechの論点を婉曲する事象について述べた。また、この視点をスピーチ教育に援用する具体例を提示することで、「言葉の選択指導」という教育上の課題を提起した。 |
| 5. 「英語スピーチにおける“一貫性”を考える」 | 単 | 2009年3月 | 鈴鹿国際大学 編 <i>English Speech Contest</i> , 第11号, pp. 19-23. | 英語スピーチの主題設定から原稿作成開始の過程において、トピックの一貫性を維持するための論旨の展開法を論じた。冒頭と総括の一貫性を保つ技術を身近な題材で例示し、あわせて、論旨を正当化するための支持素材の援用法に関する要点を整理した。 |
| 6. 「「何を言うか」からの英語スピーチ教育」 | 単 | 2009年12月 | 大学英語教育学会(JACET) 中部支部 編 <i>JACET-Chubu Newsletter</i> , 第23号, p. 5-6. | 大学における英語スピーチ科目が、「英語でどう言うか」よりも、本質的に「何を言うか」の指導が必要である点を指摘した。社会との接点を意識させるためのスピーチ教育の実現に向け、実際の講座事例とともに教育法を提起した。 |
| 7. 「心を伝えるContent & Deliveryの基礎」 | 単 | 2008年3月 | 鈴鹿国際大学 編 <i>English Speech Contest</i> , 第10号, pp. 40-43. | contentとdeliveryの両側面から、英語スピーチを発表者自身によって推敲するための方法論を述べた。informativeとpersuasiveのスピーチ構造の違いを解説するとともに、「例示」の重要性に触れ、説得力を伴うスピーチの基礎的要件について整理した。 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-----------|--|--|
| 3. 総説 | | | | |
| 8. 「基本に忠実な“力強いスピーチ”のために」 | 単 | 2007年3月 | 鈴鹿国際大学 編 <i>English Speech Contest</i> , 第9号, pp. 32-34. | 英語スピーチの初学者に対する意見の論述法を基礎的に論じた。「どう言うか」よりもむしろ「何を言うか」に主眼を置く重要性を述べたうえで、トピックの選択や、主張の論証法についての考察をまとめた。 |
| 4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績 | | | | |
| 1. 第65回 高崎市長杯 英語弁論大会 | | 2015年10月 | 高崎経済大学 ESS主催 | 審査委員 |
| 2. 第8回 全国高等学校スピーチコンテスト 東海ブロック大会 | | 2014年11月 | 全国英語教育研究団体連合会・東海北陸地区英語教育協議会 共催 | 審査委員 |
| 3. 第45回 学長杯争奪 英語弁論大会 | | 2014年10月 | 龍谷大学 ESS主催 | 審査委員 |
| 4. 第48回 天野杯 全日本大学生英語弁論大会 | | 2013年10月 | 獨協大学 ESS主催 | 審査委員 |
| 5. 第36回 福澤杯争奪 全日本学生英語弁論大会 | | 2012年10月 | 慶應義塾大学 ESS主催 | 審査委員 |
| 6. 第44回 谷本学長杯争奪 英語弁論大会 | | 2011年9月 | 関西外国語大学 ESS主催 | 審査委員 |
| 7. 第4回 黒正杯 英語スピーチコンテスト | | 2010年11月 | 大阪経済大学 主催 | 審査委員長 |
| 8. 第13回 三重県高校生英語スピーチコンテスト | | 2010年10月 | 鈴鹿国際大学 主催, 三重県教育委員会 後援 | 審査委員長 |
| 9. 第1回 三大学親善 英語スピーチコンテスト | | 2009年8月 | 大阪経済大学・東京経済大学・松山大学 共催 | 審査委員 (初回開催実現) |
| 10. 第3回 黒正杯 英語スピーチコンテスト | | 2009年11月 | 大阪経済大学 主催 | 審査委員長 |
| 11. 第12回 三重県高校生英語スピーチコンテスト | | 2009年10月 | 鈴鹿国際大学 主催, 三重県教育委員会 後援 | 審査委員長 |
| 12. 第2回 黒正杯 英語スピーチコンテスト | | 2008年11月 | 大阪経済大学 主催 | 審査委員長 |
| 13. 第11回 三重県高校生英語スピーチコンテスト | | 2008年10月 | 鈴鹿国際大学 主催, 三重県教育委員会 後援 | 審査委員長 |
| 14. 第10回 三重県高校生英語スピーチコンテスト | | 2007年10月 | 鈴鹿国際大学 主催, 三重県教育委員会 後援 | 審査委員長 |
| 15. 第1回 黒正杯 英語スピーチコンテスト | | 2007年10月 | 大阪経済大学 主催 | 審査委員長 (初回開催実現) |
| 16. 第9回 三重県高校生英語スピーチコンテスト | | 2006年10月 | 鈴鹿国際大学 主催, 三重県教育委員会 後援 | 審査委員長 |
| 17. 第1回 学長杯 英語スピーチコンテスト | | 2005年10月 | 鈴鹿国際大学 主催 | 審査委員 (初回開催実現) |
| 5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等 | | | | |
| 6. 研究費の取得状況 | | | | |
| 1. 「ビジネススピーチコミュニケーションにおける「メンタル・ディスタンス仮説」の分析法に関する実証研究」 | 単 | 2010年4月 | 大阪経済大学 2010年度 特別研究費 (23万円) | これまでのメタファ分析研究に時系列的概念を取り入れた「メンタル・ディスタンス仮説」を立証するための研究。主としてSPSSを用いた統計分析処理に必要な研究予算として申請し、採択された。 |

学会及び社会における活動等

| 年月日 | 事項 |
|----------------------|---|
| 1. 2014年12月～ 現在 | ビューティビジネス学会 (JABB) 会員 |
| 2. 2014年12月～2015年12月 | 日本国際情報学会 (GSCS) 2015年度全国大会 (大阪) 実行委員長 |
| 3. 2014年11月 | 大津市教育委員会 「ICTを活用した外国語教育ティーチングメソッド研究開発業務」 プロポーザル審査委員会 外部委員 |
| 4. 2013年5月～ 現在 | 国際ビジネスコミュニケーション学会 (JBICA) 広報委員 |
| 5. 2012年5月～2013年3月 | Association for Business Communication (ABC, 米国), Asia-pacific Conference 2013 Committee, Publicity Manager |
| 6. 2011年1月～2014年2月 | 国際ビジネスコミュニケーション学会 (JBICA) 開催支部長補佐 |
| 7. 2010年4月～ 現在 | 日本国際情報学会 (GSCS) 理事 |
| 8. 2009年7月～ 現在 | 日本国際情報学会 (GSCS) 会員 |
| 9. 2009年1月～ 現在 | 国際ビジネスコミュニケーション学会 (JBICA) 会員 |
| 10. 2009年1月～ 現在 | Association for Business Communication (ABC, 米国) 会員 |
| 11. 2009年1月～ 現在 | 日本コミュニケーション学会 (CAJ) 会員 |
| 12. 2005年9月～ 現在 | 大学英語教育学会 (JACET) 会員 |
| 13. 2005年9月～ 現在 | 全国語学教育学会 (JALT) 会員 |